

豊中市消防局人事交流研修を通じて得た応急手当普及啓発活動の
課題と今後のあり方について

(救急救命課)

今年度から実施した、大阪府豊中市消防局との人事交流研修を通じて、豊中市の応急手当普及啓発活動の実施状況と当本部を比較し得た課題と今後のあり方について検討した。

1 豊中市消防局人事交流研修について

- (1) 目的 他市の救急業務に関する事業を学ぶことで新たな知識を習得する。
- (2) 期間 令和4年12月12日から12月17日
※令和5年度は1ヶ月間の研修を予定
- (3) 派遣職員 救急救命課職員（救急救命士）1名

(4) 山形市と豊中市の比較

	山形市	豊中市	比較
人口	243,965人	407,867人	約1.67倍
面積	381.58km ²	36.6km ²	約1/10
救急出動件数 (R4)	12,042件	26,847件	約2.22倍
消防吏員数	261名	424名	約1.62倍
救急救命士数	67名	132名	約1.97倍
救急隊数	8隊	12隊	1.5倍

(5) 豊中市の「救命力世界一」宣言

豊中市は平成22年に当時社会復帰率が国内トップクラスであったことから「救命力世界一」を宣言し、救急業務高度化事業、応急手当普及啓発活動を推進している。

※社会復帰率：心肺停止状態に陥った傷病者が、日常生活ができる状態にまで回復した率

① 社会復帰率比較

	令和元年	令和2年	令和3年	過去3年統計
豊中市	4.5%	2.4%	4.6%	3.9%
山形市	4.4%	3.6%	1.9%	3.4%

(6) 豊中市の「救命力世界一」宣言のPR状況

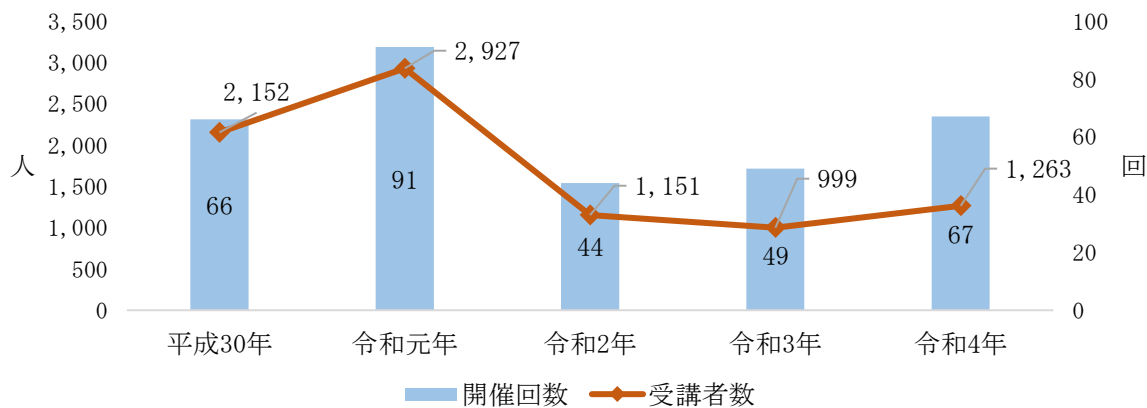


※ 消防局庁舎5階に貼られた横断幕（写真左）とはしご車のバスケット部分（写真右）に掲示された「救命力世界一宣言」。広報に力を入れており市民の認知度も高い。

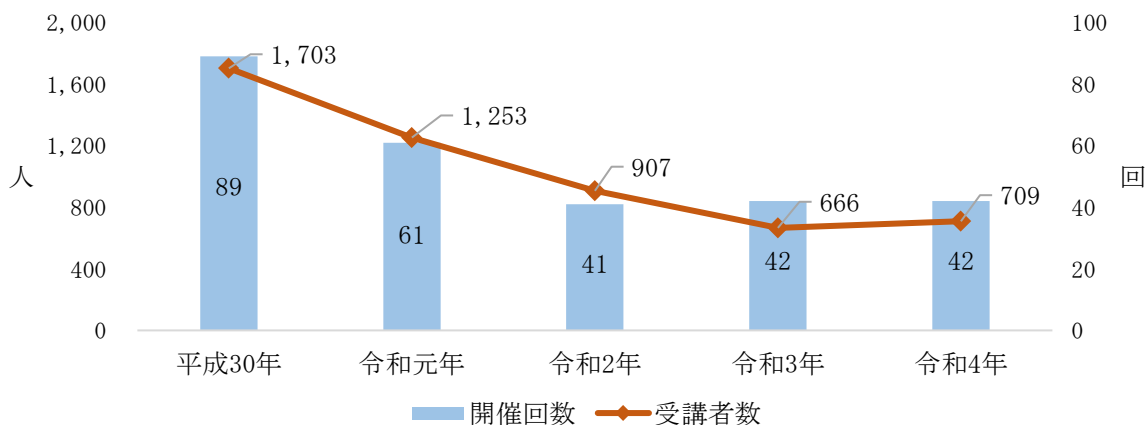
2 山形市の過去5年間の応急手当講習受講状況

令和4年の応急手当講習総受講者数は前年比+5.5%、115人増加となった。しかしながら、依然としてコロナ禍以前の水準の半数程度の受講状況である。令和5年も引き続き、人数制限を設けて感染防止対策を講じた講習会を開催しているところであるが、各講習会の定員に達するケースが多くあり、需要の高まりを感じている。

(1) 救命入門コース受講者数の推移



(2) 普通救命講習I受講者数の推移



3 応急手当普及啓発状況の比較（令和3年）

豊中市は、平成22年から「年間2万人」という応急手当講習受講者数の目標を掲げ、コロナ禍以前の令和元年まで10年間に渡りその目標を達成している。令和3年はコロナ禍の中14,166人が講習を受講している。

(1) 各種応急手当講習開催状況及び受講者数

講習種別	豊中市消防局		山形市消防本部		隣県中核市			
					秋田市消防本部		福島市消防本部	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
救命入門コース	201	11,060	49	999	14	450	1	7
普通救命講習ⅠⅡⅢ	104	1,398	52	816	100	1,131	42	488
上級救命講習	2	37	6	134	2	34	0	0
その他の講習※1	49	1,315	23	131	114	1,622	28	406
予防救急講習※2	23	356						
合計	379	14,116	130	2,080	230	3,237	71	901
年間受講者数の目標		20,000		2,500		なし		3,250

※1 その他の救命講習には、当本部で実施している①応急手当普及員講習、②指導員講習、③その他の講習の他、豊中市では、各自主防災組織等の研修会の中での救命講習や、市職員に対するWEB教材を用いた学習の受講人数等も計上している。

※2 豊中市で独自に実施している応急手当講習。(乳幼児、高齢者、熱中症)

(2) 市内人口に占める応急手当講習年間受講者の割合

	受講者数	人口	受講割合
豊中市	14,166人	407,867人	約3.47%
山形市	2,080人	243,965人	約0.85%
秋田市	3,237人	301,984人	約1.07%
福島市	901人	277,187人	約0.32%

(3) 平日における応急手当講習指導担当者

	指導者種別	指導者数
豊中市	1 救急救命課 応急手当普及啓発係 ① 消防吏員2名 ② 再任用職員2名	4名
山形市	1 救急救命課 計画推進係 ① 再任用職員1名 ② 会計年度職員3名 2 応急手当指導員・普及員38名(ボランティア指導登録者) 3 女性消防隊員8名	50名

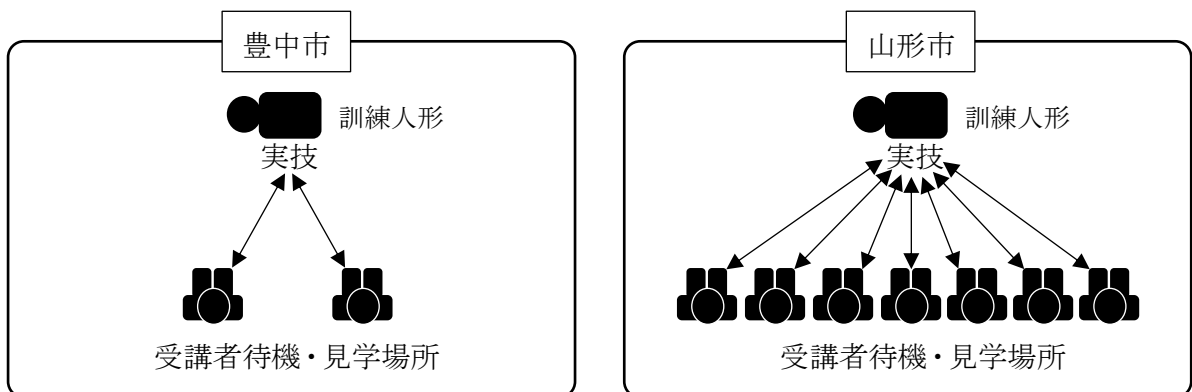
※ 土日祝日に開催する応急手当講習等の指導については、豊中市、山形市共に消防署に所属する応急手当指導員の資格を持った職員が担当している。

(4) 心肺蘇生訓練人形 1 体に対する受講者数

	受講者数
豊中市	1～2人
山形市	7名程度

※「応急手当指導者標準テキスト」では、訓練用資機材の心肺蘇生訓練人形について「受講者一人当たりの実習時間を多くとることができるように、蘇生訓練人形等はできるだけ多く準備することが望ましい」と言及している。

① 講習指導イメージ図



② メリット・デメリット

	訓練人形 1 体に対する受講者数	
	1～2名	7名程度
一人当たりの実習時間	多い	少ない
実技ストレス	少ない	多くの受講者に実技を見られることにストレスを感じる人もいる
実技評価・修正	指導者数に対して受講者が多い場合、指導者の目が行き届かない状況もある	指導者の目が行き届き、評価、修正が容易に行える

③ 豊中市の応急手当講習会風景



※ ホテルの従業員に対する「普通救命講習Ⅰ」（写真左）
市内の小学校5・6年生に対する「ジュニア救命講習」（救命入門コース）（写真右）

④ 心肺蘇生トレーニングボックス（あっぱくん）

胸骨圧迫とAEDの使用方法を短時間で学ぶことができる教材で、豊中市では主に「ジュニア救命講習」で使用している。（山形市では使用していない）



- ・ 人間の胸骨圧迫の圧力に近づけたハート型の心臓部を押して、トレーニングを行う。
- ・ 正しい力で圧迫すると、内蔵された鳴き笛が鳴る。
- ・ 箱に標記されている手順を見ながら胸骨圧迫のトレーニングができる。

4 独自に開発、実施している応急手当講習会等

	受講者対象	指導者対象
豊中市	1 ジュニア救命サポーター事業 2 シニア救命講習 3 心肺蘇生法体操 4 予防救急講習 ①乳幼児、②高齢者、③熱中症	なし
山形市	なし	1 指導者スキルアップセミナー

(1) 豊中市独自の応急手当普及啓発活動

① ジュニア救命サポーター事業（動画参照）

- ア 対象者 小学校5・6年生
- イ 目的 子どもの頃から、応急手当の必要性を根付かせる。
- ウ 講習内容 心肺蘇生法等「命の大切さ」、「救命の連鎖」等の指導を行う。
※学校の教育カリキュラムとして実施

② シニア救命講習（令和4年度新規事業）

- ア 対象者 市内在住の55歳以上の市民
- イ 目的 高齢者からの救急要請が増加しているのに対し、高齢者の自宅での応急手当実施率が約40%と低いこと（全国平均約52%）に着目し、バイスタンダーになりえる可能性の高い高齢者を対象として、心肺蘇生法を学んでもらうことで応急手当実施率の向上を目的としている。

ウ 講習内容 心肺蘇生法の他、いざという時の受診可能病院や相談窓口、119番通報の仕方、救急活動を知ってもらう。

③ 心肺蘇生法体操（令和4年度新規事業）

豊中市社会福祉協議会が地域の高齢者に対して健康維持のため体操教室を実施していることに着目し、胸骨圧迫のやり方を体操として取り入れるため、心肺蘇生法体操（約3分程度）の動画を作成し実施している。

④ 予防救急講習（動画参照）

ア 乳幼児予防救急講習

イ 高齢者予防救急講習

ウ 熱中症予防救急講習

各予防救急講習を行い、救急事故を予防することにより救急出動件数の抑制に努めることを目的としている。

乳幼児予防救急講習風景



※ 市内の大型商業施設で開催された乳幼児予防救急講習の様子。若い母親世代が乳幼児連れで受講できるように工夫されている。

5 当市の課題と今後の在り方

(1) 受講者数の拡大

① 現在の講習会の開催回数及び受講定員の増加を図る。

- ・ これまで、各月の土日に1回、年間12回開催していた普通救命講習を令和5年度から2回に増やし、年間24回開催する。
- ・ 受講定員は新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら段階的に増やしていく。

② 独自に実施する応急手当講習会の提供

- ・ 豊中市では、以前から市民のニーズに合わせてターゲットを絞った魅力的な講習会を実施しており、現在は救命率向上のため、戦略的に講習会の種類を増やしている。山形市で

も、市民の興味関心や応急手当実施の詳細なデータを分析し、より受講価値の高い講習会を提供することで、講習会受講者数の拡大につなげていく。

- ・ 以前から開催の問い合わせがある、ファーストエイドの講習について、提供内容を検討し、普通救命講習の受講を条件とするなど、受講価値の高い講習作りを行う。

※「ファーストエイド」＝急な病気やけがをした人を助けるためにとる最初の行動

1 病気に対するファーストエイド

- ① 気管支喘息発作（気管支拡張薬の吸入介助等）
- ② アナフィラキシー（アドレナリン自己注射器：エピペンの使用介助等）
- ③ 低血糖症（糖分補給介助等）
- ④ けいれん（発作中のケガの予防等）
- ⑤ 失神（体位管理等）
- ⑥ 熱中症（涼しい環境への避難、脱衣と冷却、水分と塩分の補給等）
- ⑦ 低体温症（濡れている衣類の脱衣、保温方法、加温時の注意点等）

2 けがに対するファーストエイド

- ① すり傷、切り傷（傷口の手当、包帯法、三角巾の使用等）
- ② 出血（直接圧迫止血法、感染への配慮等）
- ③ 打撲（患部の安静、冷却、圧迫、挙上法等）
- ④ 骨折（固定法等）
- ⑤ やけど（冷却法）
- ⑥ 歯の損傷（脱落歯の取扱い等）
- ⑦ 毒物（毒物を飲んだ時、毒物が付着したときの対処法等）
- ⑧ 溺水（救助の基本等）

(2) 応急手当講習指導者

山形市では、市民から応急手当指導員、応急手当普及員として講習会の指導に協力していただいているという強みがあり、マンパワーでは豊中市を上回っているという見方ができる。

その強みを生かしたうえで、より多くの応急手当指導員、応急手当普及員がストレスなく指導できるための体制を構築していく。

(3) 心肺蘇生訓練人形1体に対する受講者数の変更

豊中市と比べ、受講者一人一人が心肺蘇生訓練人形に触れている、いわゆる実技時間に大きな差が生じていることを知り、心肺蘇生訓練人形1体に対する受講者数を減らすことで、実技時間を確保し、講習会の質の向上につなげて行く。

【参考資料】

1 当本部で開催している応急手当講習の種類

講習種別	講習時間	内容	交付
救命入門コース	45分・90分	短い時間で心肺蘇生法とAEDの基礎を学ぶコース	参加証
普通救命ステップアップ講習Ⅰ	2時間	救命入門コースの受講者が通常3時間で行う普通救命講習Ⅰを2時間で修了できる講習	修了証
普通救命講習Ⅰ	3時間	成人に対する心肺蘇生法とAEDの使用法を学ぶ講習	修了証
普通救命講習Ⅱ	4時間	成人に対する心肺蘇生法とAEDの使用法を学び、応急手当の知識と技術について効果測定(筆記試験・実技試験)を実施する講習	修了証
普通救命講習Ⅲ	3時間	小児・乳児に対する心肺蘇生法とAEDの使用法を学ぶ	修了証
上級救命ステップアップ講習	5時間	普通救命講習の受講者が通常8時間で行う上級救命講習を5時間で修了できる講習	修了証
上級救命講習	8時間	成人、小児、乳児に対する心肺蘇生法とAEDの使用法の他、止血法、異物除去法、搬送法等を学び、応急手当の知識と技術について効果測定(筆記試験・実技試験)を実施する講習	修了証
応急手当普及員講習	24時間	主に事業所の従業員、自治会や自主防災組織等の構成員に対し、普通救命講習の講師を務めることができる	認定証
応急手当普及員再講習	3時間	応急手当普及員が資格更新のために3年毎に受講する講習	—
応急手当指導員講習	24時間	応急手当普及員が指導できる普通救命講習に加え、消防機関の行う上級救命講習や応急手当普及員講習の指導を行うことができる	認定証
応急手当指導員再講習	4時間	応急手当指導員が資格更新のために3年毎に受講する講習	—

2 山形市消防本部における各種応急手当講習の受講状況(過去5年)

年	区分	救命入門コース	普通救命S講習Ⅰ	普通救命講習Ⅰ	普通救命講習Ⅱ	普通救命講習Ⅲ	上級救命S講習	上級救命講習	応急手当普及員講習	応急手当普及員再講習	応急手当指導員講習	応急手当指導員再講習	その他※1	合計
H30	回数	66	—	89	3	6	—	3	3	0	2	3	—	175
	人数	2,152	—	1,703	79	98	—	104	15	0	18	21	—	4,190
R1	回数	91	—	61	3	8	—	4	5	4	1	2	—	179
	人数	2,927	—	1,253	64	150	—	112	41	8	9	15	—	4,579
R2	回数	44	—	41	2	5	—	4	1	0	2	0	—	99
	人数	1,151	—	907	39	73	—	121	17	0	16	0	—	2,324
R3	回数	49	0	42	2	8	2	4	3	4	3	6	7	130
	人数	999	0	666	39	111	36	98	40	23	20	25	23	2,080
R4	回数	67	0	42	2	8	1	1	2	0	3	0	1	127
	人数	1,263	0	709	40	85	12	39	23	0	21	0	3	2,195

※1 患者等搬送事業(民間救急サービス)における乗務員養成講習